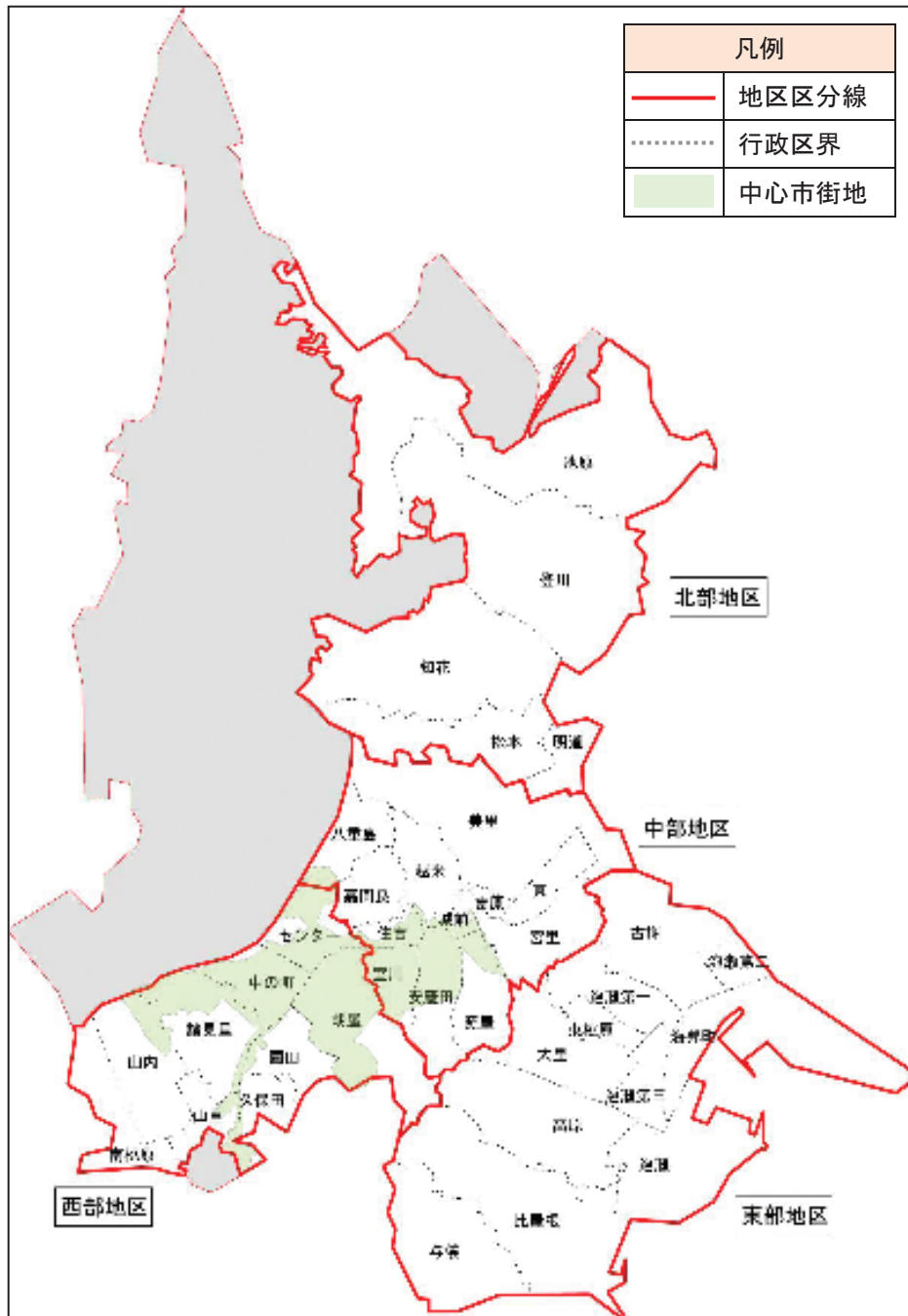


第2章 沖縄市の概要

1 地区区分

本計画では、適宜、市内を下図に示す「北部地区」、「中部地区」、「東部地区」、「西部地区」の4つに区分して、各種データを整理しています。



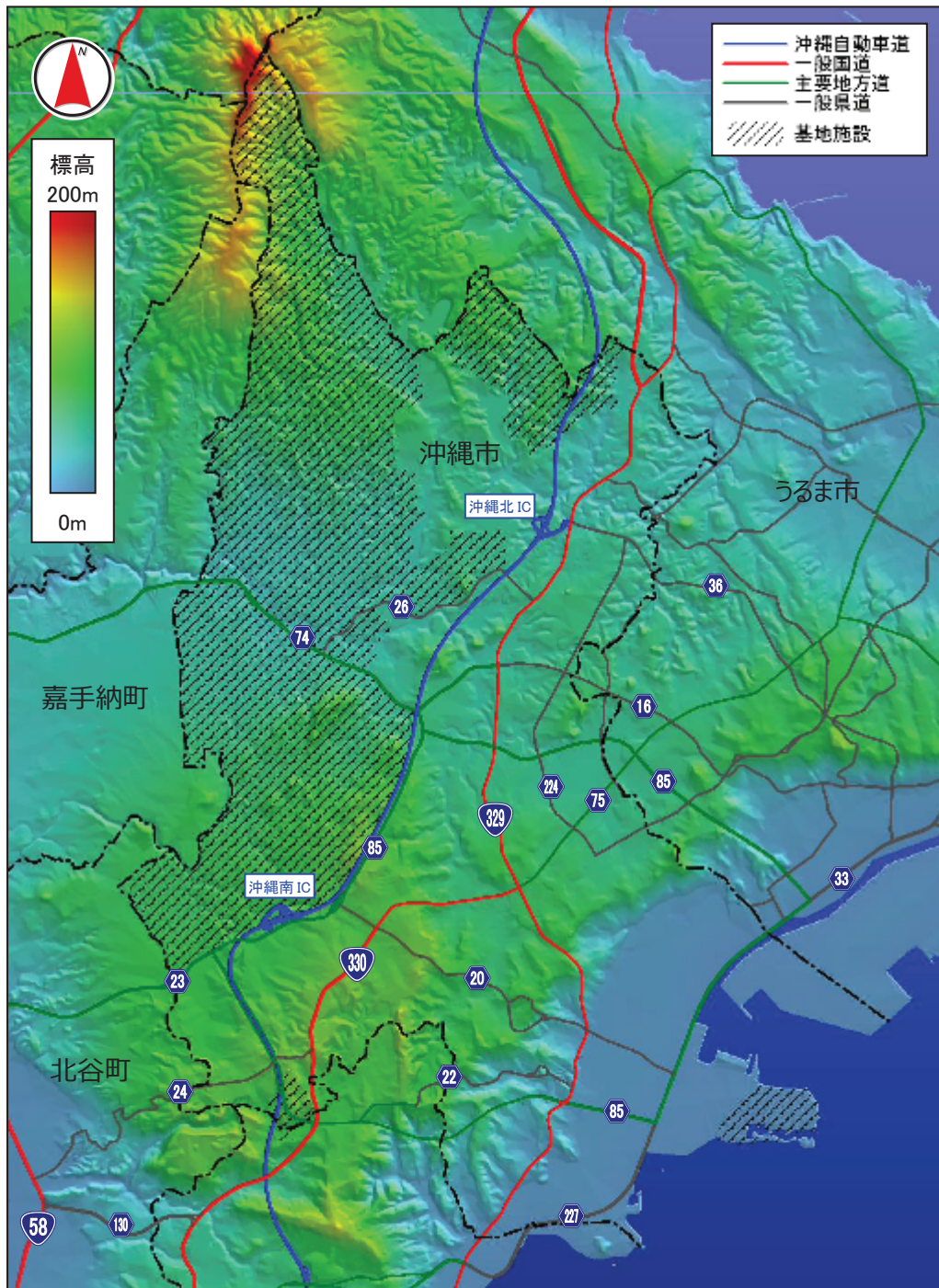
※中心市街地は、沖縄市中心市街地活性化基本計画で位置づけられたエリア

参考：H28 沖縄市公共交通網形成計画策定基礎調査

図 2-1. 沖縄市の地区区分

2 地形

- 市の北部は丘陵地が広がり、台地・段丘が分布する地形となっています。
- 市の中央部はなだらかな傾斜の台地と斜面地から形成されています。
- 市の東部は、斜面を経て大部分が海岸低地となっています。

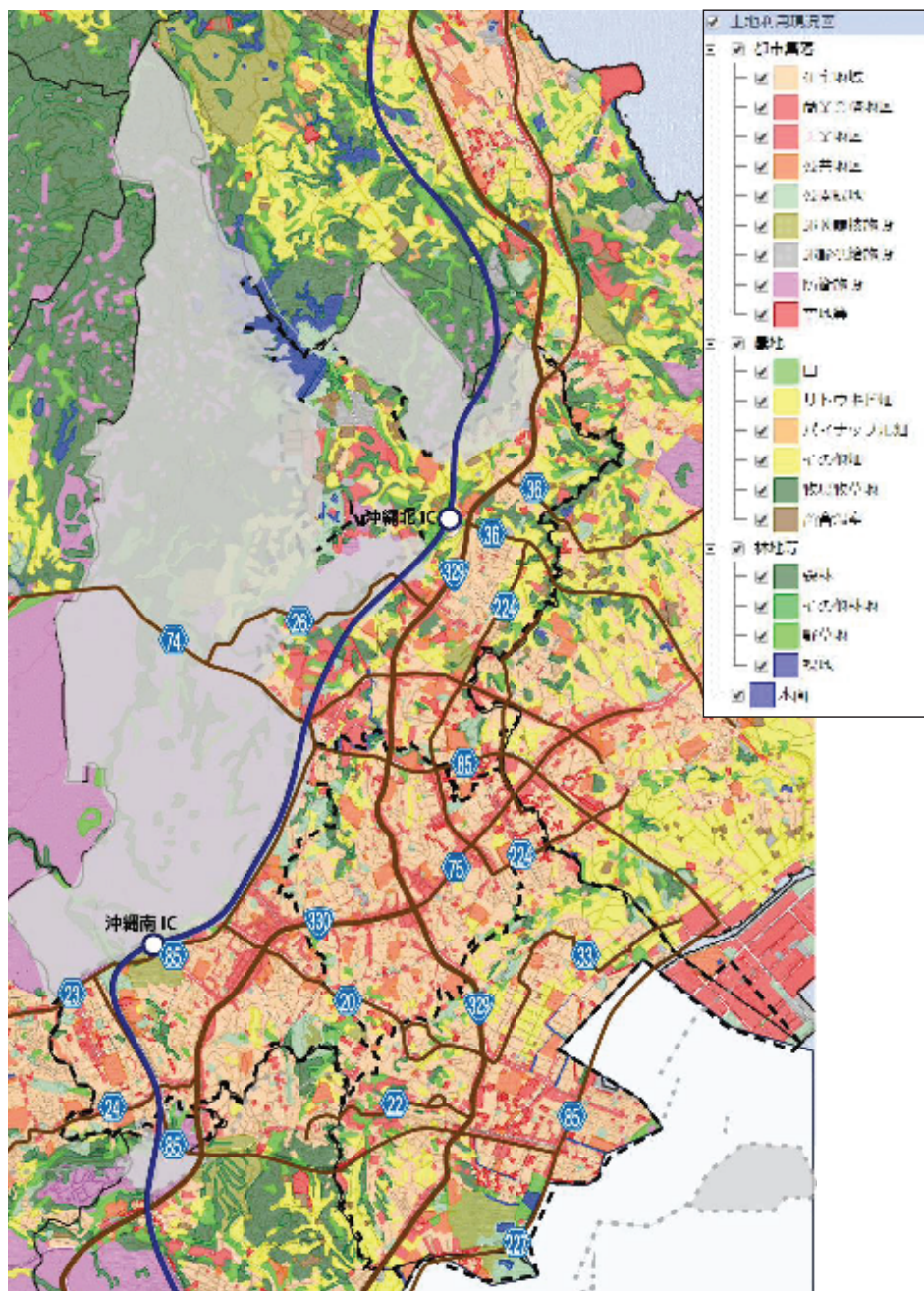


出典：国土地理院の基盤地図情報

図 2-2.沖縄市の地形

3 土地利用

- 市全域に、住宅用地が広がっており、都市化が進んでいます。
- 北部地区は、他地区よりもやや山林・畑・果樹園が多くなっています。
- 西部地区は、国道 330 号沿線、中部地区では県道 75 号線及び県道 224 号線沿線、東部地区では国道 329 号及び県道 85 号線沿線を中心に商業用地が広がっています。
- 市の北西部は嘉手納基地が占めています。



出典：H23 沖縄県地理情報システム

図 2-3. 沖縄市の土地利用

4 人口

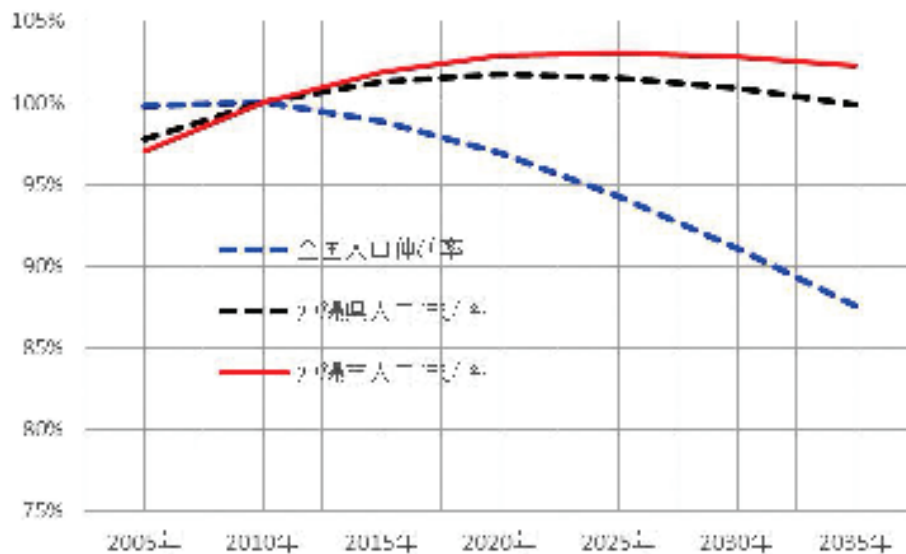
4-1 総人口

- 沖縄市の人口は増加傾向にあり、2005年（平成17年）の126,400人から、2015年（平成27年）で132,640人と10年間で6,240人（4.9%）増加しています。
- 国立社会保障・人口問題研究所の平成28年1月に公表したデータによると、2025年（平成37年）がピークの134,238人と予測されていますが、2017年8月現在で、141,674人とすでに予測を上回るペースで人口が増加しています。（2005年、2015年は国勢調査、2017年は住民基本台帳）
- すでに人口が減少に転じている全国や、人口がまだ増加している沖縄県に比べ、沖縄市の将来人口は増加率が高くなっています。

表 2-1. 沖縄市の人口推移

	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
全国人口 (千人)	127,768	128,057	126,597	124,100	120,659	116,618	112,124
沖縄県人口 (人)	1,361,594	1,392,818	1,410,269	1,416,876	1,414,154	1,404,887	1,390,796
沖縄市人口 (人)	126,400	130,249	132,640	133,960	134,238	133,893	133,167

※2010年までは国勢調査値、2015年以降は将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）



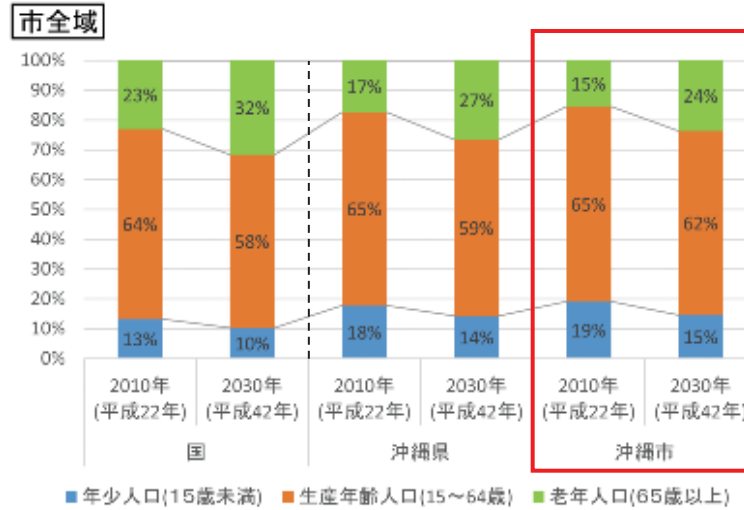
※グラフは2010年を100とした場合の、各年の値を表している

出典: H28.1 国立社会保障・人口問題研究所

図 2-4. 沖縄市の人口の伸び率

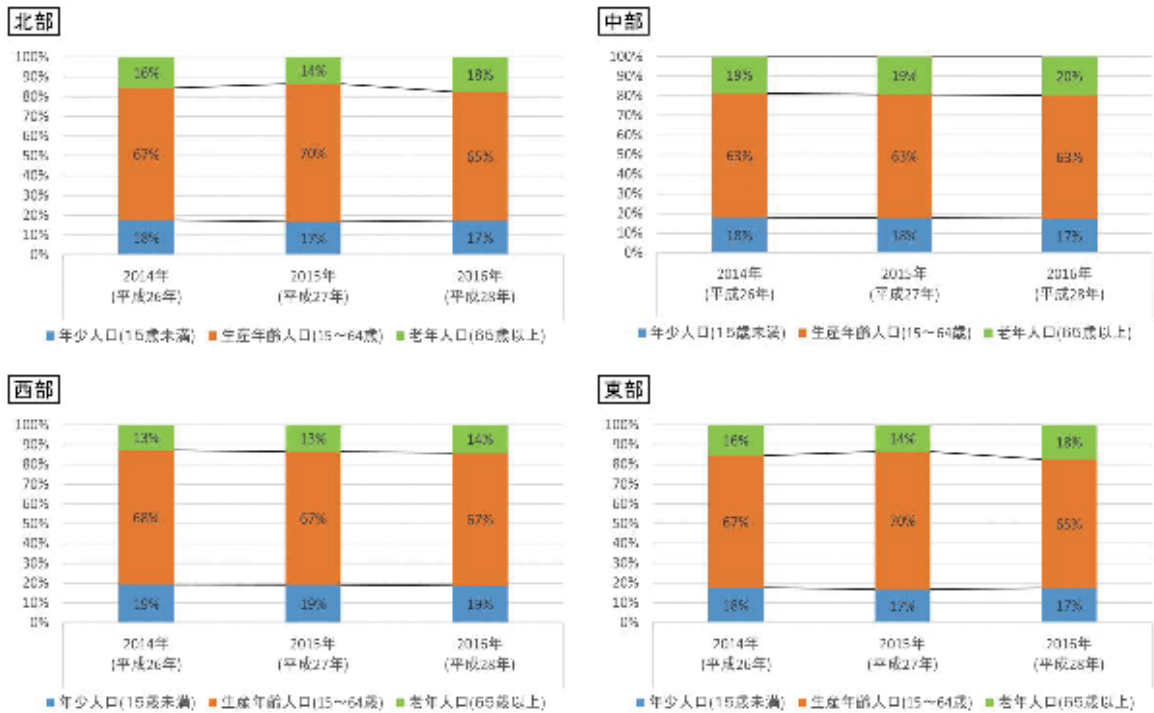
4-2 年齢3区分別

- 沖縄市の高齢化率は、全国や沖縄県に比べて低ですが、2010年の15%から2030年には24%へと9ポイント増加すると推計されています。
- 地区別では、中部地区の高齢化率がやや高く、2016年で20%に達しています。



出典:H28.1 国立社会保障・人口問題研究所

図 2-5.沖縄市の年齢3区分別人口の推計



出典:H26～H28 沖縄市人口統計

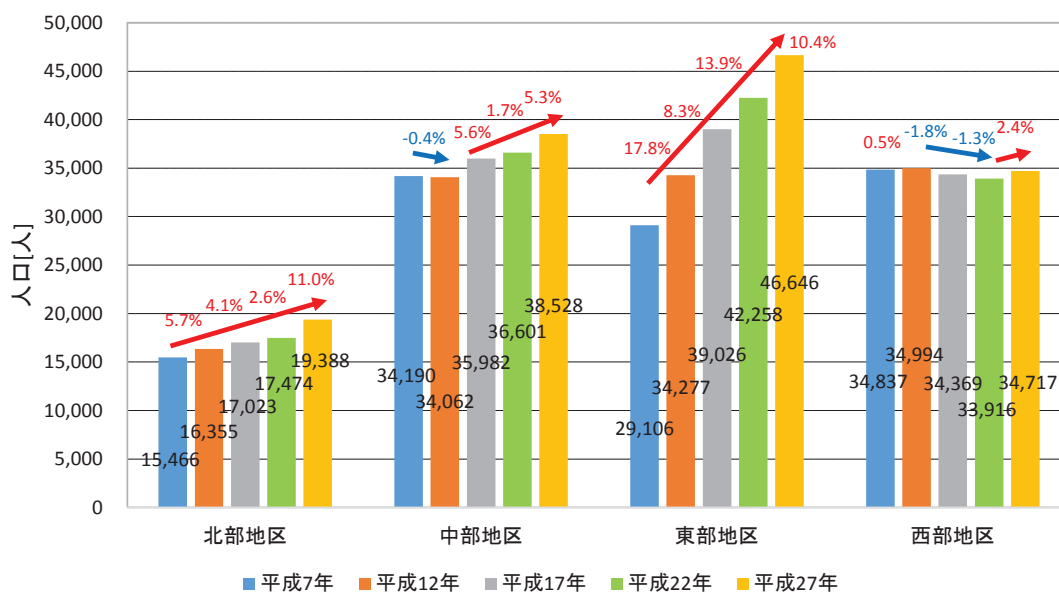
図 2-6.沖縄市の地区別年齢3区分別人口

4-3 地区別の人口動向

- 沖縄市全体の人口は、増加傾向にあります。地区別では人口動向に違いがみられます。
- 東部地区では、沿岸部の泡瀬等で急速な市街化が進行しており、平成7年の29,106人から平成27年には、46,646人へと20年間で、17,540人（60.2%）の大幅な増加となっています。
- 胡屋十字路を中心に中心市街地を形成している西部地区は、空洞化により平成22年まで減少傾向を示していましたが、平成27年は2.4%増加しており、回復基調がみられます。
- コザ十字路を中心に、西部地区と連坦して中心市街地を形成している中部地区は、西部地区同様に、平成12年まで減少傾向を示していましたが、区画整理事業による美里地区での開発等により、平成17年から増加に転じています。
- 北部地区の人口は4地区で最も少ないですが、白地地域での開発による市街地拡大で、人口が増加傾向にあります。

表 2-2.地区別の人口動向

地区	人口動向
北部地区	農業振興地域白地地域の開発等による市街地拡大のため、ここ数年増加傾向である。
中部地区	中心市街地の人口減少区域がある一方、新市街地で宅地化が進んでおり、地区全体では増加傾向にある。
東部地区	急速な市街化が進行しており、人口増加が著しい地区である。
西部地区	中心市街地の空洞化現象により、人口が減少傾向にあったが、回復基調がみられる地区である。

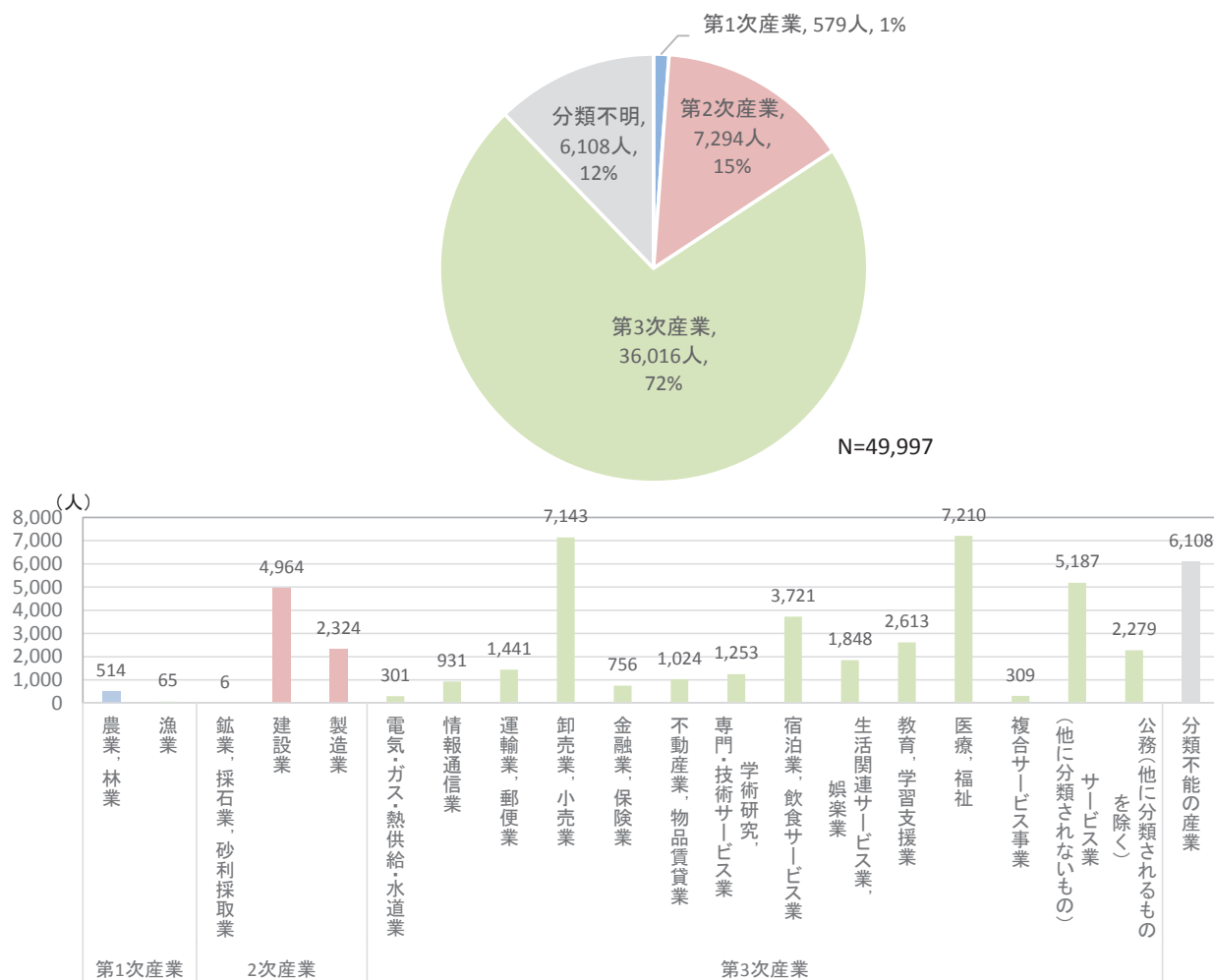


出典: H7～H27 国勢調査

図 2-7.地区別人口動向

5 産業

- 平成 27 年の国勢調査より、沖縄市の産業別就業者数の構成比をみると、「第 3 次産業」が 72%と 7 割強（分類不明を除くと 82%）を占めており、第 3 次産業が中心の就業構造となっています。なお「第 2 次産業」の構成比は 15%（分類不明を除くと 17%）、「第 1 次産業」の構成比は 1%（分類不明を除くと 1%）となっています。
- 産業別大分類毎の就業者数をみると、「医療、福祉」が 7,210 人、「卸売業、小売業」が 7,143 人と多く、この 2 つの産業で全就業者数 49,997 人の 29%と約 3 割を占めています。
- その他、第 3 次産業では、「サービス業（他に分類されないもの）」が 5,187 人、「宿泊業、飲食サービス業」が 3,721 人と多く、第 2 次産業では「建設業」が 4,964 人と多くなっています。



出典：H27 国勢調査

図 2-8. 沖縄市の産業別就業者数

6 主な施設の立地状況

6-1 公共施設

- 沖縄市役所が西部地区の仲宗根町にある他、沖縄市文化センター、沖縄市農民研修センター等の公共施設が市内各地に立地しています。

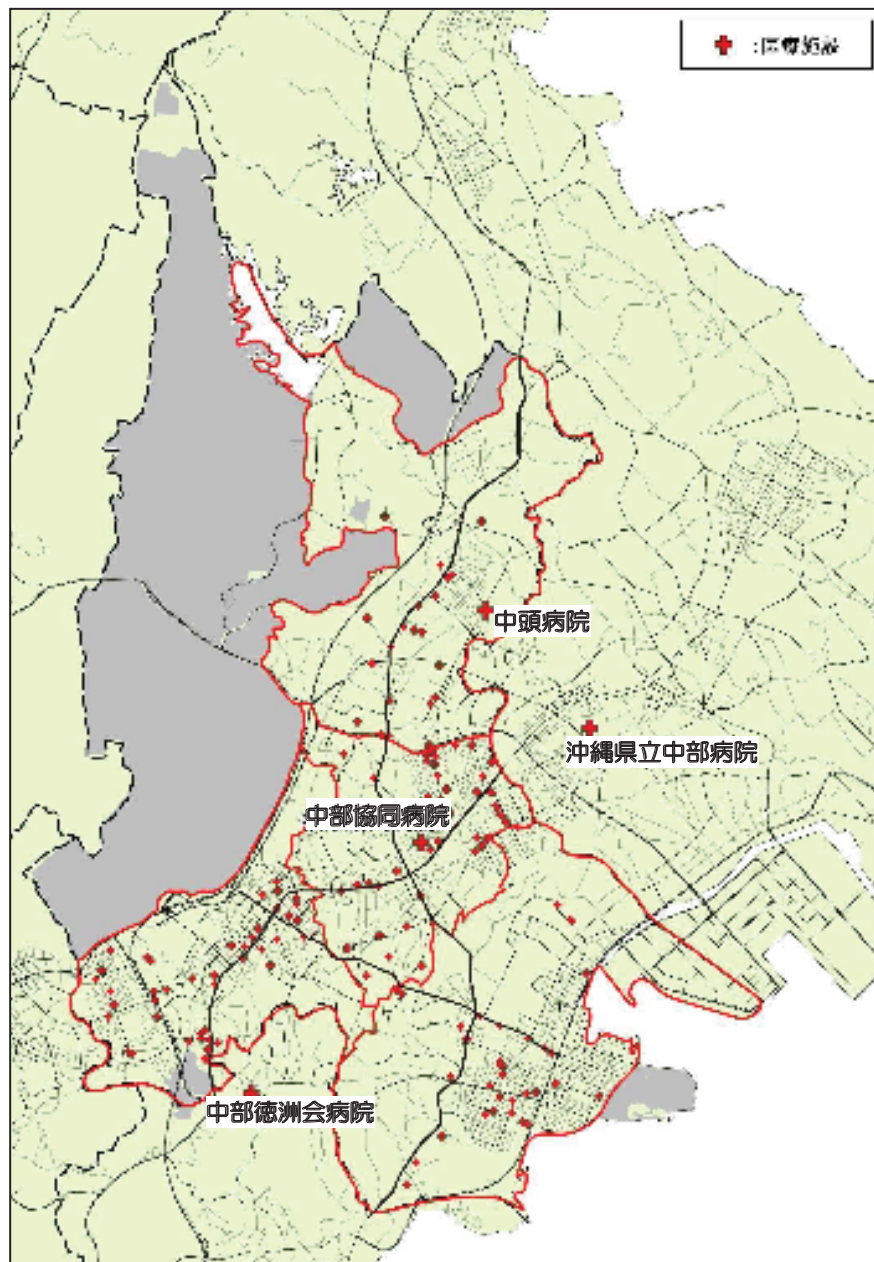


参考：H28 沖縄市公共交通網形成計画策定基礎調査

図 2-9. 主な公共施設の立地状況

6-2 医療施設

- 医療施設は、市内各地区に点在しています。
- 救急医療施設として、市内には北部地区の中頭病院、中部地区の中部協同病院の2つの病院があり、また、市に隣接して、うるま市に県立中部病院、北中城村に中部徳洲会病院があります。
- 中頭病院は、平成28年10月に北部地区の知花から登川に、中部徳洲会病院は、平成28年4月に中部地区の照屋から北中城村に移転しています。



出典：H28 国土数値情報

図 2-10.主な医療施設の立地状況

6-3 教育施設

- 沖縄市には、小学校が16校、中学校が8校、高校が5校立地しています。
- なお、各高校の近くには路線バスが運行されています。

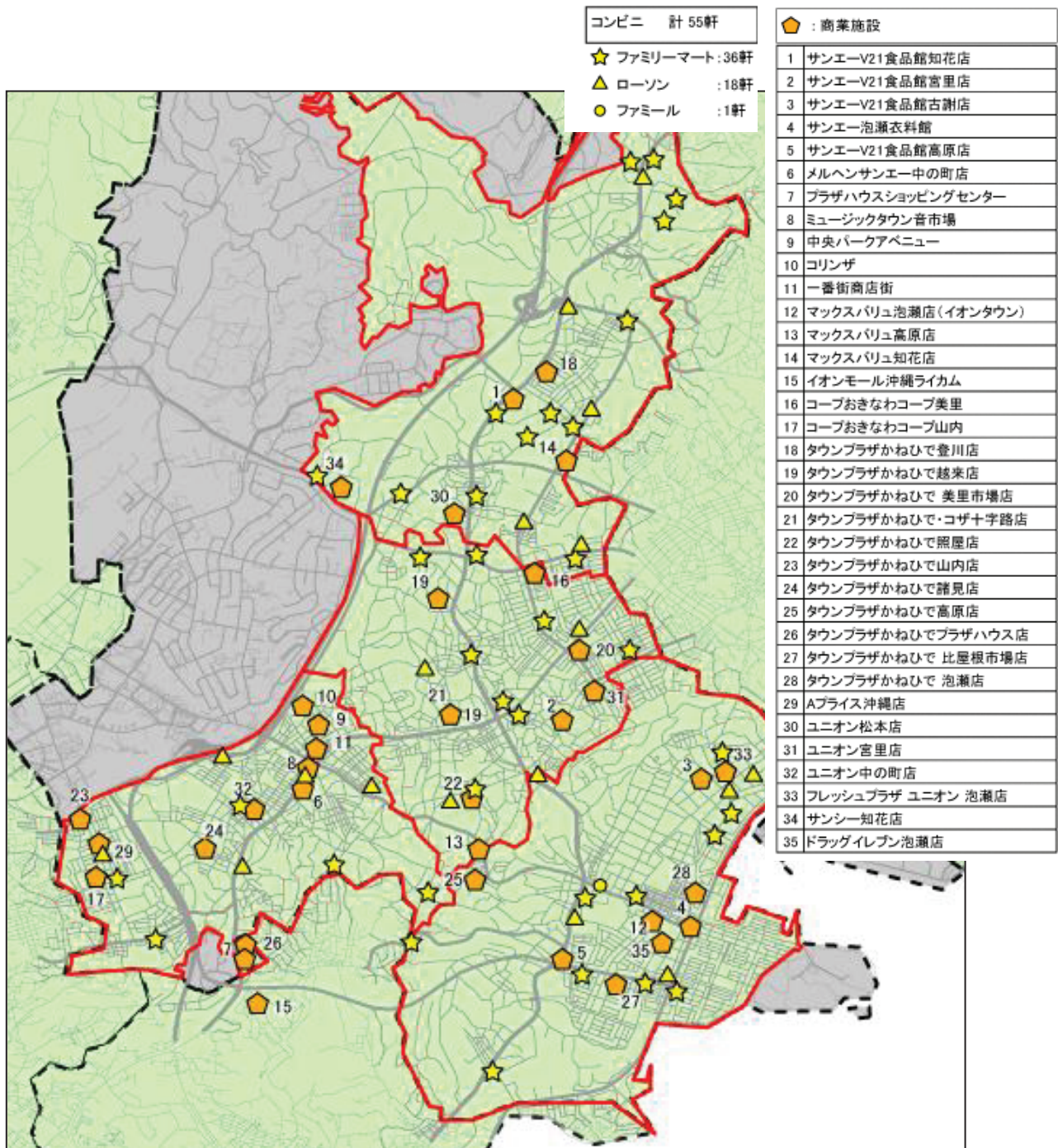


出典：H18 国土数値情報、H28 に沖縄市で補完

図 2-11.教育施設の立地状況

6-4 商業施設

- 沖縄市には、多くのスーパー、コンビニ等の商業施設が立地しています。
- 沖縄市周辺には、北中城村のイオンモール沖縄ライカム、うるま市のイオン具志川、サンエー具志川メインシティなどの大型商業施設が隣接しています。

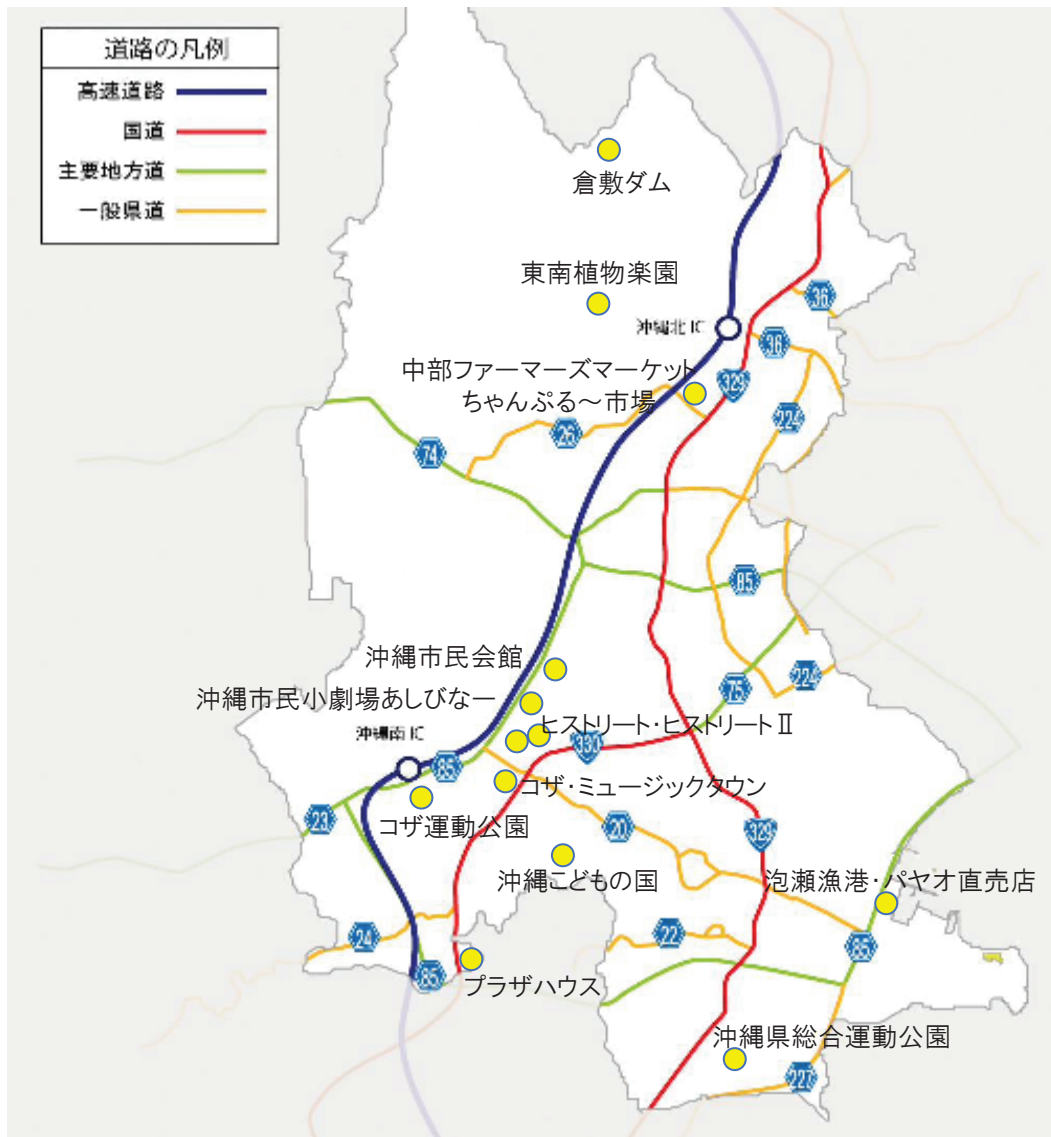


出典:H28 沖縄市公共交通網形成計画策定基礎調査

図 2-12.主な商業施設の立地状況

6-5 観光・集客施設

- 沖縄市には、県内唯一の本格的な動物園である「沖縄こどもの国」(平成28年の来園者46万人)や、プロ野球の広島東洋カープのキャンプ地として有名な「コザ運動公園」(H28年の来園者数70万人)、多くの音楽イベントが開催される「コザ・ミュージックタウン」などの観光・集客施設が立地しています。
- 市内では、県内外から多くの集客がある「全島エイサーまつり」(平成28年の入込客数33万人)、「ミュージックタウンのイベント」(平成28年の入込客数9万人)、「こどもの国フェスティバル」(平成28年の入り込み客数5万人)等のイベントも開催されています。



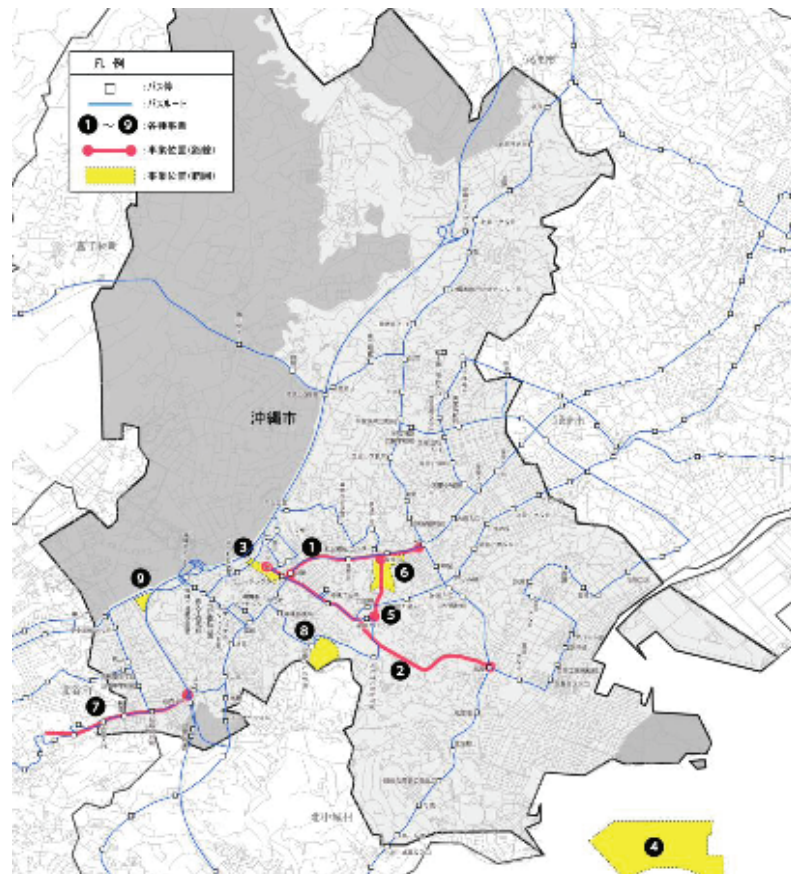
参考: H28 沖縄市公共交通網形成計画策定基礎調査

図 2-13. 主な観光・集客施設の立地状況

7. 開発計画

7-1 開発等の概要

- 市内では、国道道整備などの道路整備や、土地区画整理事業などの面整備が進められています。
- 東部海浜開発事業では、埋立地（約95ha）を活用して、スポーツコンベンション拠点の形成が図られています。
- （仮称）沖縄市多目的アリーナ施設整備（以下、「多目的アリーナ」という）では、交流及び地域振興の拠点として、スポーツコンベンションや大型イベントを開催できる施設整備が進められています。
- なお、2023年にはバスケットボールのワールドカップの予選が多目的アリーナで開催されます。



参考: H28 沖縄市公共交通網形成計画策定基礎調査

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ①国道330号沿道整備 | ②胡屋泡瀬線整備事業【県道20号線】 |
| ③中の町地区土地区画整理事業 | ④東部海浜開発事業 |
| ⑤安慶田中線整備事業 | ⑥安慶田地区土地区画整理事業 |
| ⑦県道24号線バイパス整備事業 | ⑧沖縄こどもの国施設整備 |
| ⑨(仮称)沖縄市多目的アリーナ施設整備 | |

図 2-14. 市内における開発動向

7-2 各事業等の概要

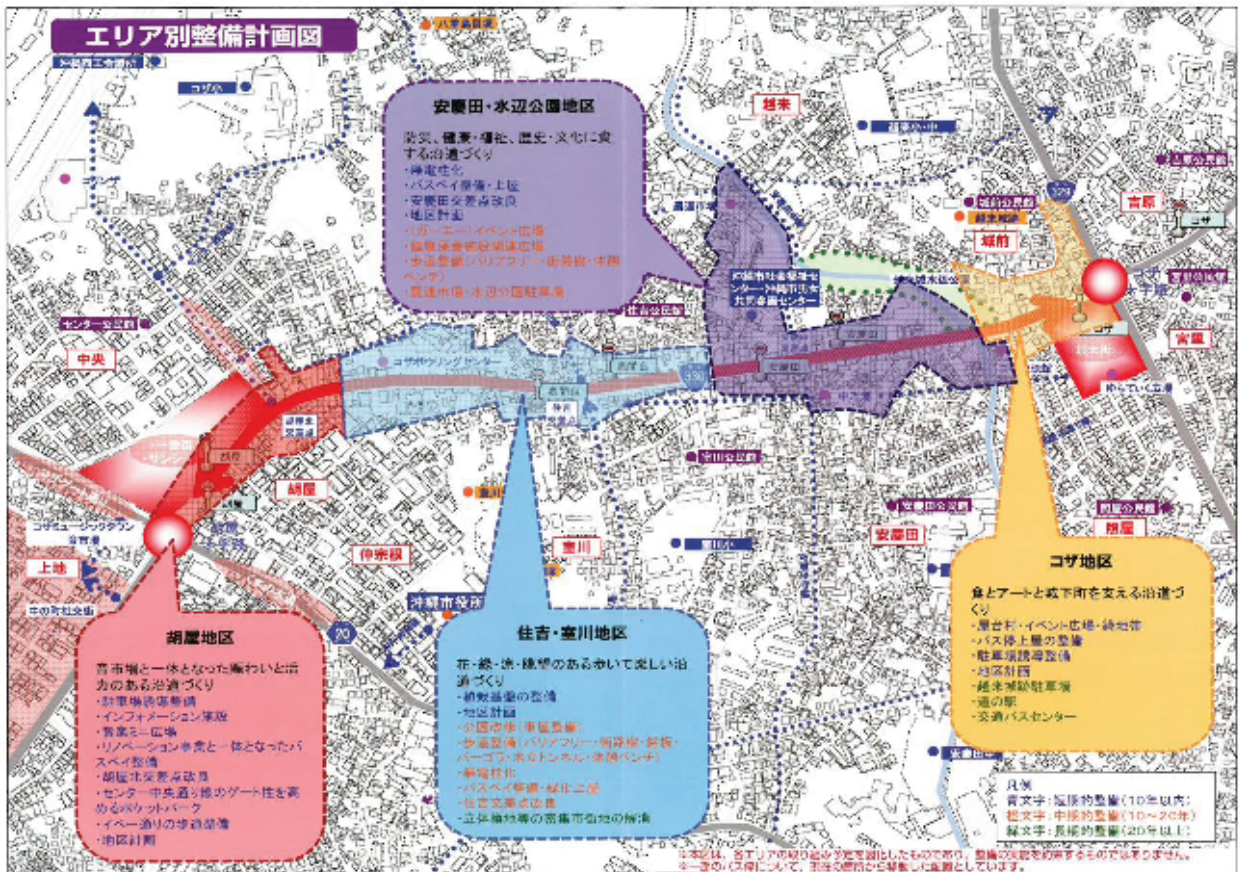
(1) 国道 330 号沿道整備

【事業の概要】

沖縄市の中心部を結ぶ国道330号胡屋ーコザ間において、交通の円滑化に向けた交差点改良を行うとともに、沿道地域の活性化に向け、沿道のまちづくりの検討が平成 21 年度から行われています。

【公共交通との関係】

国道 330 号の交差点改良により、路線バスの定時性の向上が期待されます。また、バスベイ♦と広場が一体的に整備されることでバスの待合環境が向上し、バス利用の促進が期待されます。



出典：平成 22 年度国道 330 号沿線土地利用計画基本方策(案)パンフレット
 図 2-15. 国道 330 号沿道のエリア別整備計画

(2) 胡屋泡瀬線整備事業(県道 20 号線)

【事業の概要】

胡屋地区と泡瀬地区を結ぶ東西方向の幹線道路の4車線化が進められており、混雑解消が図られます。事業は平成17年度から行われています。

【公共交通との関係】

当該路線は現在、中心市街地循環バスのみが運行されていますが、定時性、速達性が向上することで、東部地区と西部地区を結ぶバス路線の導入などが考えられます。



出典: 中部土木事務所 HP

図 2-16. 胡屋泡瀬線整備事業位置図

(3) 中の町地区土地区画整理事業

【事業の概要】

中心市街地に位置する中の町において、土地区画整理事業による公共施設の整備改善と宅地の利用増進を図り、老朽密集市街地の改善による良好な市街地の形成を図ることを目的に実施されています。事業施工期間は H28.2～H37.3 となっています。

【公共交通との関係】

区画整理事業により、中の町地区の道路が整備されることで、中心市街地循環バスの経路の変更などが考えられます。

(4) 東部海浜開発事業

【事業の概要】

スポーツコンベンション拠点の形成という開発コンセプトのもと、泡瀬地区の埋立地に、スポーツ、健康・医療、ホテル、マリナー等の整備が検討されています。

【公共交通との関係】

新たな集客拠点が整備されるため、交通結節点の整備や、新規バス路線の導入などが考えられます。

スポーツコンベンション拠点の形成イメージ



出典：沖縄市資料

図 2-17. 東部海浜開発事業の土地利用イメージ

(5) 安慶田中線整備事業

【事業の概要】

安慶田地区の密集市街地の改善を図るため、区画整理事業とあわせて、安慶田地区を南北に貫く幹線道路が整備されます。事業期間は平成 21～30 年度となっています。

【公共交通との関係】

安慶田地区内の幹線道路が整備されることで、中心市街地循環バスの経路の変更などが考えられます。

(6)安慶田地区土地区画整理事業

【事業の概要】

安慶田地区の建物老朽・密集、行き止まり、狭隘道路の解消による防災性の向上を図るため、区画整理事業により整備します。事業期間は平成21年～30年度となっています。

【公共交通との関係】

安慶田地区内の道路が整備されることで、中心市街地循環バスの経路の変更などが考えられます。

(7)県道24号線バイパス整備事業

【事業の概要】

本島中部を東西に横断する幹線道路として、幅員が狭く蛇行している県道24号線のバイパスが整備されます。事業は平成15年度から行われています。



出典：中部土木事務所 HP

図 2-18. 県道 24 号線バイパス整備事業位置図

【公共交通との関係】

県道24号線のバイパス整備により、現県道24号線を運行している62番系統、63番系統の経路の見直しや、観光客が多い北谷アメリカンビレッジと沖縄市の主要な観光施設を結ぶバス路線の導入などが考えられます。

(8)沖縄こどもの国施設整備

【事業の概要】

既存施設の整備や、現在の16haから29haへの拡張工事等により、集客力を高めます。2026年(平成38年)までのリニューアルが計画されています。

【公共交通との関係】

県内客以外にも、観光客の集客増も見込まれることから、国道330号を運行する既存の路線バスの経路の見直しや、周辺観光地や宿泊施設と連絡する路線バスの導入、中心市街地循環バスの増便などが考えられます。

(9)多目的アリーナ

【事業の概要】

スポーツコンベンションの推進、大型イベントの開催など交流及び地域振興の拠点となる多目的アリーナが整備されます。供用予定は2020年度で、琉球ゴールデンキングスの本拠地としての利用が予定されています。

【公共交通との関係】

イベント等で県内外から多くの集客が見込まれることから、既存路線バスの経路の見直しや、那覇市等の県内主要都市とを結ぶ路線の導入などが考えられます。



【主な利用(案)】

- ・スポーツ興業(琉球ゴールデンキングス公式戦、大相撲、Vリーグ)
- ・1万人規模コンサート
- ・(災害時における)防災施設

【規模(案)】

- 11,428席(コンサート時)
- 【トイレ】
- 男(大31)、(小42)
- 女(83)

臨場感が感じられ、来場者、興行者が「使いやすい」
県内にない1万人規模の「観せる」施設！

出典:沖縄市資料

図 2-19.多目的アリーナの整備イメージ

7-3 開発計画のスケジュール

各開発計画のスケジュールは以下のように整理されます。

表 2-3.開発計画のスケジュール

開発計画等	年度									備考
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026~	
①国道 330 号沿道整備										2009 年度より検討
②胡屋泡瀬線整備事業【県道 20 号線】										2005 年度より実施
③中の町地区土地区画整理事業								★供用予定		2025 年度供用予定
④東部海浜開発事業				★部分供用予定						2020 年度に部分供用予定
⑤安慶田中線整備事業	部分供用									部分供用
⑥安慶田地区土地区画整理事業	部分供用									部分供用
⑦県道 24 号線バイパス事業										2003 年度より実施
⑧沖縄こどもの国施設整備									拡張区域供用予定★	2026 年度拡張区域供用予定
⑨多目的アリーナ				★供用予定						2020 年度供用予定

8 地域特性のまとめ

1～7より沖縄市の地域特性は、以下のように整理されます。

表 2-4.地域特性のまとめ

項目	内容
地形	●市の北部は丘陵地や台地・段丘が、中央部から西部はなだらかな傾斜の台地と斜面地が、東部は斜面を経て海岸低地となっている。
土地利用	●市全域に市街地が広がっている。
人口	●人口は増加傾向にあり、美里や泡瀬の区画整理区域などでDID [◆] が拡大、東部地区では人口が急増している。 ●高齢化率はH22の15%からH42は24%へと9ポイント増加すると予測されている。
産業	●就業人口の8割強を第3次産業が占めている。
主な施設の立地状況	●市内各地に行政機関、医療機関、観光施設等の公共公益施設が立地しており、市役所や市民会館、図書館等の主要施設は西部地区に立地している。 ●西部地区に、沖縄こどもの国や、コザ・ミュージックタウン、コザ運動公園、全島エイサーまつり、プロ野球キャンプなどの集客施設、イベントが多くある。
開発計画	●多目的アリーナ、東部海浜開発事業、沖縄こどもの国施設整備などのプロジェクトが進められている。